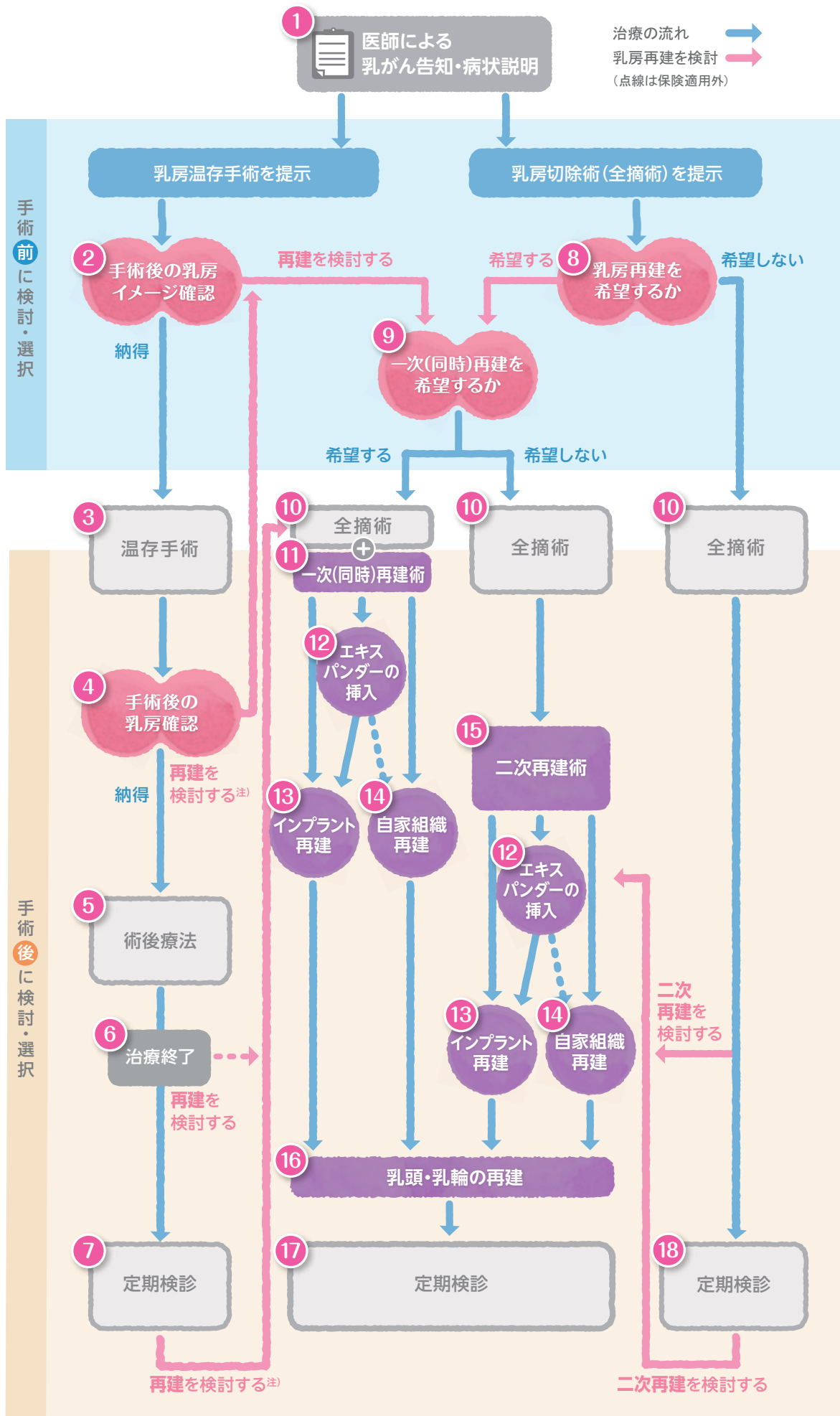


# 乳房再建フローチャート



注)温存手術後の再建について保険適用となるのは、がんの取り残しやリンパ節転移、再発が発見された場合などに限ります。  
※ このフローチャートは乳がん治療の基本的な流れを示したものです。患者さんによっては、術前/術後療法などが追加される場合があります。

## ① 医師による乳がん告知・病状説明

乳がんの診断結果と病状の説明があり、がんの広がりや性質に応じた手術の術式や治療方針が提示されます。

## ② (乳房温存) 手術後の乳房イメージ確認

切り取る部位や大きさによって、乳房の変形の度合いが異なります。主治医に手術例の写真を見せてもらって、手術後のイメージを確認しましょう。

## ③ 乳房温存手術

がんのある乳房の部分をくり抜いて切除します。がんの広がりによって切り取る部位や大きさは異なります。

## ④ 乳房温存手術後の乳房確認

乳房の美容的な仕上がり（整容性）に納得できているかどうか確認しましょう。納得できない場合は、主治医に相談して、乳房再建術を検討する場合があります（この場合は保険適用にはなりません）。なお、手術後の検査でがんの取り残しやリンパ節転移が発見され、乳房切除術（全摘術）が行われることがあります。この際に再建を検討する場合は、保険が適用されます。

## ⑤ 術後療法

温存手術後には原則として放射線療法を受けます。抗がん剤療法やホルモン療法などの薬物療法も、必要に応じて行われます。

## ⑥ 治療終了

抗がん剤療法が終了し、放射線療法の終了後 1 年以上経てば乳房再建を安全に行いやすくなります。ただし、放射線療法を受けると、特にプレスト・インプラント（シリコン製人工乳房）による再建は難しくなります。

## ⑦ 乳房温存手術後の定期検診

乳がんの手術後は定期検診が必要です。再発の疑いが認められず、皮膚等の状態が良ければ、主治医に相談して、乳房再建を検討することができます（この場合は保険適用にはなりません）。なお、定期検診などで再発が発見され、乳房切除術（全摘術）が行われることがあります。この際に再建を検討する場合は、保険が適用されます。

## ⑧ 乳房再建を希望するか

乳がんの治療の状況によって、乳房再建ができないこともあります。

## ⑨ 一次（同時）再建を希望するか

乳がんの手術と同時に乳房再建術を行うことができます場合があります。ただし、乳がん治療の状況によって一次再建が勧められない場合もあります。

## ⑩ 乳房切除術（全摘術）

大胸筋と小胸筋などの組織は残し、乳房全体を切除することが最近では多くなっています（以前は筋肉も切除していたこともあります）。

## ⑪ 一次（同時）再建術

乳がんの手術と同時に、乳房再建またはティッシュ・エキスパンダーの挿入までを行う方法です。

## ⑫ ティッシュ・エキスパンダーの挿入

乳がんの手術後に、大胸筋の下にティッシュ・エキスパンダー（皮膚拡張器）を挿入し、半年間程度かけて皮膚とその周辺組織を徐々に伸ばしてから再建を行う方法です。プレスト・インプラント（シリコン製人工乳房）による再建では、この過程を経ることが一般的となっています。

## ⑬ インプラントによる再建

乳がんの手術後に、大胸筋の下にプレスト・インプラント（シリコン製人工乳房）を挿入します。ティッシュ・エキスパンダー（皮膚拡張器）を挿入した場合は、エキスパンダーとインプラントの入れ替えを行います。

## ⑭ 自家組織による再建

お腹や背中など自分の体の組織を胸に移植する方法です。一次（同時）再建の場合は 1 回の手術で乳がんの手術から再建開始まで、二次再建の場合は 1 回の手術である程度の形成を行うことが一般的です。

## ⑮ 二次再建術

乳がんの手術後に一定の期間をおいてから、乳房再建術を行う方法です。ティッシュ・エキスパンダー（皮膚拡張器）を使用する場合には、最初の手術でエキスパンダーの挿入までを行います。

## ⑯ 乳頭・乳輪の再建

乳がんの手術で乳頭・乳輪を切除した場合は、乳房再建術の手術から 6 ヶ月程度の期間が経てば、乳頭・乳輪の再建を行うことができます。

#### 17 乳房再建後の定期検診

乳がんの手術後は定期検診が必要です。乳房再建後でもマンモグラフィなどの検査は可能です。また、インプラントの変形や破損がないかどうかを調べる目的で、約2年に1回はMRIまたは超音波による検査を受ける必要があります。

#### 18 乳房切除術（全摘術）後の定期検診

乳がんの手術後は定期検診が必要です。再発の疑いが認められず、皮膚等の状態が良ければ、主治医に相談して、乳房再建を検討することができます。